

第 19 回中部電力原子力安全向上会議アドバイザーボード 議事要旨

1. 日 時：2023 年 8 月 30 日（水）9 時 30 分～12 時 00 分
2. 場 所：中部電力本店内会議室
3. 出席者：＜社外委員＞小林委員、勝治委員、長崎委員、服部委員、吉橋委員
＜社内委員＞林社長、増田副社長、水谷副社長、伊藤副社長、伊原専務、片山専務
＜関係者＞ 名倉原子力部長、佐野総務・広報・地域共生本部部長、
森経営考査室長、加藤経営戦略本部部長（司会）

4. 議事要旨

「前回のアドバイザーボードでのご意見について」、「原子力部門、経営考査室、広報部門の取り組み」、「2023年7月11日の安全向上会議での指示・議論」について当社より説明。多岐にわたる議論がなされた。

主な意見は以下のとおり。

○経営層への報告体制について、資料作成に注力し過ぎず、抜けが無いようにした上で一元管理・合理化等に取り組んでいくことが今後必要だと思う。

○安全の維持・向上はトップダウンの指示、ボトムアップの姿勢のバランスが重要である。現場の意識、モチベーションが根っこの原因となるケースが多い。現場の主体性を尊重する仕組みや制度について振り返ることで、個々人が考え啓蒙しあうレベルに向けた仕掛けを作るべき。

○RIDMやPRAの専門家をいかに育て、権限を持たせるかが重要。中部電力が先陣を切る気概で取り組むべき。

○「はまおか絶対ブック」は、入口を簡易にすることで、読もうという意識に自然になることができ、ナッジ（行動科学上）の視点からもとても良い。事故トラブルの原因は、基本の確認が抜けていることが多い。基本事項が抜けたときの怖さを認識する、基本確認の目的を考え気づく等を徹底することが大事。他産業との交流結果も踏まえて、さらなる安全向上を検討いただきたい。

○少子高齢化の影響もあり、現場の労働力確保は今後より一層大きな問題となる。産業構造上の課題でもあり短期的な解決は困難ではあるが、長い目で取り組んでいただきたい。

○地域に住む高校生がエネルギーや原子力も含め、自分たちが今後どうしていくのかを考えることは、彼/彼女ら自身のキャリア教育にもつながるため、エネルギーピッチのような取り組みは非常に大事である。

○浜岡原子力発電所や原子力発電の訴求にあたっては、中部電力の多様な取り組みを多角的な観点からしっかり伝えていくことについて、今後に期待したい。WEB 動画について、内容が多岐にわたり関心につながる動画になっているが、どのような動画があるのか一覧があるとより分かりやすいと考える。

以上